

お元気ですか

南 恵子

です

ニュースを読んでご
意見をお寄せ下さい。

区議会議員

南 恵子

TEL 3790-1523



発行責任者 日本共産党品川区議会議員 南 恵子 八潮5-12-65-503

メールアドレス minami@jcp-shinagawa.com

中央環状品川線の懇談会開かれる

騒音も煤塵も大気汚染もこれ以上ひろげない で いい環境で暮らしたい-----参加者の発言

11月19日に中央環状品川線建設の懇談会が八潮地域センターで開かれました。事業者である首都高速道路(株)と東京都(第二建設事務所)、八潮自治会連合会の間での懇談ですが、交通量と騒音中心に議論されました。南も参加しました。

交通量は7割増になる

懇談では交通量について意見交換されました。

首都高速道路株式会社、平成13年と19年時の交通量調査で13万2千台、13万6千台、平成26年の予想は17万1千台になると予想されると説明。この数字の差はたいしたことないと言いました。しかし、77、79%増で4万台も増えるのですから影響なはいとはいえません。

しかもこの数字は、八潮団地の東西両側の高速道路の交通量だけです。その他に、一般道路と港湾物流に大型車両が行き来している状況は入っていません。

参加された方は、東側に面した窓の網戸は汚れが激しいとの実感を意見で述べていましたが、交通量が増えればそれが激しくなるのですから、これ以上の汚染はごめんです。

騒音・粉塵対策は防音壁を1m嵩上げするのみ

また、八潮自治会連合会から増える交通量に対して、騒音と粉塵対策について質問が出されました。

首都高k.kの説明は『遮音壁を4mから5mに嵩上げすると環境基準の65デシベルをクリアーできる』というものでした。東京都都市計画局大気汚染さらに深刻に

の資料には大井ジャンクションの騒音予測値は、平成26年には昼間が53デシベル(基準は65)、夜間は52デシベル(同60)と記述されており、問題ないという姿勢です。

参加者から、「わずか1mしか高くしないで、しかも環境基準ぎりぎりにとどめるのはあまりにも生活者の気持ちを理解しようとしていない」と厳しい意見が出されました。

当然だと思えます。

大気汚染も心配

大気汚染も同様に心配になります。

東京都都市計画局の資料には、NO₂(二酸化窒素)の予測は平成26年は0.055、環境基準は0.06なので大丈夫としています。しかし、本当にそうでしょうか。自動車の排気ガス規制策は向上していますが、まだまだ十分とはいえません。道路ができれば車が増えていき、いわゆる「たちごっこ」という状況です。交通量の問題もあります。

南は年2回、大気汚染の測定をしています。07年12月の測定で品川清掃工場前の測定値が0.07でした。環境基準を上回っています。

PM_{2.5}あらたな大気汚染物質として注目されている微小粒子状物質は、気管支

喘息急増の原因ではないかといわれています。また、肺の奥深く入り込み肺がんなどの健康被害をおこしやすいと心配されています。

日本は対策が遅れている分野で環境基準も確定されてい

ません。

この対策について首都高は、換気塔の地下に設備する防塵装置で80%除去できるとしています。しかし、基準もないなかで20%の取り残しがあること事態大問題といえます。

品川区は今、長期基本計画の策定作業を進めています。出

来上がると来年度から実施されます。

この計画は、5つの都市像を掲げて、福祉・教育・税務・環境・建設・商工業振興などをそれぞれの都市像に当てはめています。

来年度からこの計画にあわせて区役所の組織を改変します。事業部の名称も事務

もガラッと変わるところも出ています。

11月25日の総務委員会で、この改正議案が出されましたが、反対しました。理由は、まず、生涯教育の根本が崩されるからです。

スポーツや学習などの生涯教育は教育委員会の大事な仕事として位置づけられています。ところが、社会教育の法律が変わり、教育委員会から区長部局の事務に変えることができるようになったので区は改正するのですが、教育の位置づけが薄まっ

てしまうのです。しかも

「賑わいのある街づくり」として進めるといいます。

学習するということはあくまで自発的、内発的なものですから賑わいと一緒というのは理解できません。皆さんはいかがですか。また、学習の成果として期待されていくので、本来の学習・教育から外れていきます。

反対の第二の理由は、保育の問題です。

40の幼稚園と保育園の職員管理をするために、3人の課長が地域別に対応することに変更するのです。

「脳の発達」と謳って保育をするよう指導しているようですが、健康・社会性、自立を促す働きかけこそ、今の乳幼児には必要です。そのためには職員の確保が大事ですが増やしません。

このニュースをお読みになつて、ご意見やご要望などありましたら、お気軽にお寄せください。電話(3790)1523